



「画像から推定する竜巻速度場に関する研究」(3)

近年我が国でも重大な気象災害の一つとして認知されつつある竜巻ですが、その構造はいまだに十分に明らかになってはおりません。特に竜巻が被害を与える地面付近の速度場は観測が極めて難しく、地上付近の風はごく一部だけがあきらかになっているのが現状です。一方、被害から風速を推定する方法も竜巻本来の速度場を明らかにするものではありません。本研究は、高分解能レーダー網も十分ではない我が国において、映像などから竜巻強度を推定する方法として、漏斗雲の概形を画像計測することにより竜巻の最大接線速度や半径を推定する手法について検討するものです。これにより被害調査ができない海上竜巻やレーダーデータの得られない竜巻事例などについても速度場の特性を集約できれば、気象学的にも防災工学的にも有用であると考えられます。

本研究集会も3年目となり米国オクラホマ大学の Bluestein 教授と東京大学の 新野教授を招聘して国際会議とし、竜巻の画像からその性質を解明する手法の課題や展望について議論したいと考えております。ご関心をお持ちの方々のご参加をお願い申し上げます。

佐々 浩司 (高知大学)

開催日時：2016年3月3日(木) 10:00~17:00

開催場所：新宿 NSビル3階会議室 K

参加申込：事前登録制：wejurc+160303p@gmail.com に、ご氏名、ご所属、連絡先をお送りください。

その他、お問い合わせは、東京工芸大学 風工学研究拠点 事務局 TEL: 046-242-9658 までお願いいたします。

プログラム

10:00~10:10	主旨説明	佐々 浩司 (高知大学)
10:10~11:40	高分解能レーダーで捉えた竜巻の構造(仮)	Howard Bluestein (University of Oklahoma)
11:40~13:00	昼食	
13:00~14:00	スーパーセルとそれに伴う竜巻に対する地表面摩擦の効果に関する数値的研究	新野 宏 (東京大学)
14:00~14:10	休憩	
14:10~15:10	竜巻状気流シミュレータによる物体の飛散実験	松井 正宏 (東京工芸大学)
	漏斗雲画像解析に用いたランキン複合渦モデル	宮城 弘守 (宮崎大学)
15:10~15:20	休憩	
15:20~16:20	漏斗雲による竜巻状流れの可視化	野田 稔 (徳島大学)
	竜巻渦 -実観測と再現実験との接点-	佐々 浩司 (高知大学)
16:20~16:30	休憩	
16:30~17:00	総合討論	